

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

発行日：毎月 10 日・20 日・月末
創刊日：1999 年 12 月 8 日
編集 / 発行：橋本 啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 8. No.17 2006 年 6 月 20 日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2006 CNA Report Japan. All rights reserved.

ニュース項目

大塚商会、20 年のテレビ会議社内利用経験を踏 まえたテレビ会議ソリューションを提供、国内の テレビ会議販売会社としては最大手

株式会社大塚商会(東京都千代田区)は、システムインテグレーションとサービス&サポートの2大事業分野において、ERPやCRMなど先端テクノロジーや新しい製品群に注目する以上に、ビジネスプロセスの改善や業務改革など、自社の問題解決に向けた具体的なソリューションをお客様の目線で考え、ネットワークからシステム、そしてその保守までトータルに提供してきたという。その中で、テレビ会議システムにおいても、国内の主要販売会社として多数の企業に提供してきた。

大塚商会にとってテレビ会議システムは、約20年前にさかのぼる。大塚商会は、全国に営業直営店あるいは販売パートナーが展開しており、出張経費を削減しつつ社内コミュニケーションの円滑化や活性化は事業の展開及び拡大には必須であった。

1987年にまず3拠点にて専用線を利用したテレビ会議システムを自社内に導入。その後1994年には、30拠点、66台のISDNベースのテレビ会議ネットワークを構築。そして、本社ビルを新築した2003年には、IPブロードバンドネットワークを利用したシステムへ拡張更改して現在に至る。

現在は、主要33拠点に70台の専用端末と多地点接続装置(MCU)が導入され、1ヶ月に開催されるテレビ会議は、平均して累計約120会議、1000拠点を接続しているという。以前は、ISDNでのテレビ会議であったが、IPブロードバンドに更改後は、月額ランニングコストが1700万円削減できたという。

大塚商会にとっては、テレビ会議システムは、電話やメールなどと同列で日々の業務で使う必須なツールとなっている。「一般の社員でも、他事業所との打ち合わせには日常的に

テレビ会議を使用している。特別な業務従事者や役職者だけでなく、誰でも普通に使える、慣れる、使わざるを得ない環境があったので、日々使われるツールになっている。」(大塚商会 ブロードバンドプロモーション部 次長 北川達史 氏)

大塚商会は、複数のテレビ会議メーカーの製品を扱っているが、今まで20年間の自社内での利用経験を踏まえた上で、導入希望のお客様の要望に基づき提案を行っているという。

提案は、通信事業者としてのWANネットワークの構築から、マルチベンダーとしての最適なシステムインテグレーション、そして、導入後の運用保守サポート、海外サポートまで含む。その中で、大塚商会としての強みはトータルなテレビ会議ソリューションを一元的窓口で提供できること。また、「導入後のサポートを重視している。」(大塚商会)という。導入後のサポートはお客様にとって重要なポイント。そこに競合他社との差別化が現れると見る。

お客様が導入を検討する際には、パンフレットなどで理解していただくだけでなく、大規模な導入では事前にお客様の環境で使ってもらう場合もある。「やはり百聞は一見にしかずで、当社としてはデモ機も潤沢に準備している。実際の環境で試していただくのが、良さをご理解していただくには早道だと思う。」(同部 係長 和田 力氏)

また、検討する際には、音の良さも考える必要があるという。「コミュニケーションツールとしてテレビ会議システムを考えた時、お客様の関心はまず画像に行く事が多いのですが、実際の会議では、音の品質が重要。相手と会話が切り替わるとき冒頭部が切れてしまったり、マイクの性能が悪いととてもわずらわしい会議となり、使い勝手が悪いという評価につながる。」(同 北川氏)

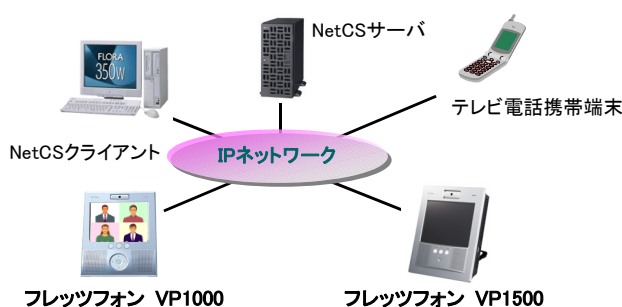
大塚商会で導入した企業数は国内でも最大数の規模を

誇るという。その中でも、ユニ・チャーム株式会社、東急リゾート株式会社、川崎陸送株式会社、東洋スーパ株式会社、などでの実績を公表している。また、O-CNET(大塚コミュニケーションネットワーク)VPN サービスを利用して、テレビ会議システムだけでなく、IP テレフォニー、IP モニタリングシステム、携帯電話なども連携させたコミュニケーションソリューションも提供している。

導入検討をしやすいように、大塚商会のウェブサイトでは、「テレビ会議システム専用 Web サイト」を用意。テレビ会議に関する便利な情報を提供している。

株式会社大塚商会は、1961年複写機の事業から創業。売上高は、連結で約 3443 億円。従業員数は、約 6200 名。国内外に拠点、パートナー企業があり、60 万社の顧客を持つ国内大手システムインテグレーター。主要取引メーカーは、約 1,200 社以上。2000 年に東証一部上場。ISO14000 の認証取得。

日立ハイブリットネットワークの NetCS、NTT フレッツフォン VP1500 に対応



フレッツフォン連携の NetCS システム構成図

日立ハイブリットネットワーク株式会社(神奈川県横浜市)は、同社が販売するIPビジュアルコミュニケーションシステム「NetCS series」に、東日本電信電話株式会社(東京都新宿区)と西日本電信電話株式会社(大阪府大阪市)の IP テレビ電話端末「フレッツフォン VP1500」に接続する機能を追加。6月から販売開始。

フレッツフォン VP 1500 は、2006 年 4 月に NTT 東西が販

売開始した「フレッツフォン VP1000」の新しいラインナップ。今回「NetCS series」と組み合わせることで、NetCSとフレッツフォンとの間で多地点間での映像コミュニケーションを行えるようになる。フレッツフォンの対応機器には、最大 4 画面を表示。5 地点以上接続して使用する場合は、話者の画面を自動で切り替えて表示する。

フレッツフォン VP1500 は、映像、音声等の基本性能向上やテレビ会議装置との相互接続性向上を実現した新しいフレッツフォンのラインナップとしての位置づけ。

NetCS は、通信プロトコルに SIP を採用した拡張性の高いシステム。これまでに、「IP-PBX 連携」、「FOMA 接続」、「フレッツフォン VP1000 接続」のオプションを発売し、他の通信プロトコルをサポートしたビジュアルコミュニケーションを提供してきた。

今回、「フレッツフォン VP1000 接続オプション」にフレッツフォン VP1500 との接続機能を追加し、「フレッツフォン対応機器接続オプション」とした。また、「フレッツフォン VP1000」と「フレッツフォン VP1500」を合わせて利用することも可能になった。

フレッツフォン対応機器接続オプションの価格は、400,000 円、フレッツフォン対応機器接続オプション付き NetCS series は、140 万円から。サーバー、フレッツフォンなどのハードウェア、その他各種オプションは価格には含まれていない。(いずれも税抜き)

日立ハイブリットネットワークとしては、NetCS 製品全体の年間売上高 10 億円を見込む。

ポリコムジャパン、VSX シリーズのソフトウェア新バージョン Polycom VSX 8.5 を発表

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、同社のビデオ会議システム「Polycom VSX」シリーズのソフトウェア新バージョン「Polycom VSX バージョン 8.5」を発表。新バージョンでの主な追加内容は以下のとおり。

(1)ファイアーウォール/NAT 越えに関する標準規格である H.460 をサポート。ポリコムのセキュリティアブライアン

ス製品「Polycom Voice Video Interface Unit(V2IU)」などのファイアーウォール/NAT 越えソリューションと併用して使用する。

V2IU は、ネットワーク上の最短経路で映像、音声のパケットトラフィックを通過させることで、帯域幅を最適に活用する。また、セッションボーダーコントローラーに採用されているトンネル技術とは異なり、ビデオ及び音声専用の NAT を実行する。これにより、ポリコムジャパンによると、ファイアーウォール環境下でのビデオや音声通信の問題を解決し、セキュリティをさらに強化するという。

(2)FIPS(連邦情報処理規格)140-2 に基づいたセキュリティモードを追加。これによりシステム管理時のセキュリティが向上し、不正アクセスの防止が可能。この機能は、128M 以上のメモリーを備えた VSX 端末で利用できる。Web ブラウザから HTTPS を使って VSX に安全に接続できる。SSH(Secure Shell)を使った Telnet 及び FTP 接続をサポート。

(3)「G722.1 Annex C」の広帯域音声に対応。G722.1 Annex C は、同社が開発した音声技術「Siren14」。ポリコムジャパンによると、G722.1 Annex C は、MPEG4 AAC-LD、eACC+、AMR-WB+などの広帯域音声技術と比較して電力及び帯域の消費を大幅に削減するという。

(4)ポリコムの SIP がマイクロソフト環境への統合を強化した。「Microsoft Office Live Communications Server 2005」に VSX システムを登録が可能で、VSX プレゼンス(オンライン、オフライン、取り込み中など)を表示。

(5)VSX の IP 通信の最適化を強化。映像パケットのオーバーヘッドを軽減し、ネットワークの混雑を緩和。IT 管理者が自社のビデオネットワークに必要な総帯域幅を正確に判断可能になる。パケットや MTU(1 回の転送で送信できるデータの最大値)のサイズを管理者が調整できるため、ビデオトラフィックへのコントロール性が高まる。

Polycom VSX 8.5 は、現在出荷中。保守契約期間中の VSX シリーズは、無償で最新バージョンにアップグレードできる。

ワン・ドゥ、メッセージワンなど 5 社アライアンスで、1 対 1 の対面型接客サービスの提供、 今後は感情解析システムの追加も予定

ワン・ドゥ株式会社(東京都新宿区)、メッセージワン株式会社(東京都千代田区)、株式会社 KDDI ネットワーク & ソリューションズ(東京都文京区)は、インターネットのウェブ画面上で 1 対 1 の対面型接客サービスを実現するコミュニケーションツール「Web コンタクト」の提供を 5 月より開始した。手軽に導入できるようにサーバーの導入やその運用保守の手間を省いた ASP 型サービスで提供する。

1 対 1 の対面型接客サービスを行える Web コンタクトは、ブロードバンドインターネットに接続された PC とヘッドセット、Web カメラがあれば、Web画面上で映像、音声、チャット、資料共有などの機能を使い窓口業務などを遠隔で行えるツール。ユーザーとオペレーターが Web 画面上での説明資料の共有やオペレーターの遠隔操作によって画面上の入力や操作をサポートすることができる。

Web コンタクトは、オペレーターが、ウェブ画面上で待機し、そこにアクセスしてきたユーザーが専用画面にログインし、画面からオペレーターを呼び出す。そうすると、呼び出されたオペレーターが問い合わせに対応。画面を通じて 1 対 1 で行うことが可能。初回の利用時にユーザー側でアプリケーションをインストールして利用する。

Web コンタクトは、専用サーバーによるセッション管理、通話履歴、ログイン・ログアウトの記録が行え、ユーザー側からの呼出に対して、サーバーにて自動的に負荷分散し、オペレーター側と接続したり、ユーザーを自動的に待機状態にしたりすることも可能。

価格は、初期費用 49,800 円からとなっており、オペレーターID ひとつ毎に月額費用 19,800 円となる。ユーザー側の費用はかからない。

また、アプリケーションのカスタマイズ、ウェブサイトのカスタマイズ、コールセンターシステムや顧客・マーケティングデータベースと連携するためのシステム構築、オペレーターの教育、派遣、コールセンター受託なども要望に応じ

て別途費用にて提供している。

今後は、ユーザーとオペレーターとの会話における音声を数学的に解析し、快・不快・緊張といった話者の感情レベルを測定する感情解析システムの追加を今年夏に行う予定。これにより、オペレーターのストレスマネジメントを行い、応対品質を改善することが可能になる。

Web コンタクトサービスは、以下の5社でアライアンスを組んで提供する。サービスは、ワン・ドゥ株式会社が提供、メッセージワン株式会社は、技術提供、株式会社 KDDI ネットワーク&ソリューションズは販売及び運用面、そして、運用保守では、株式会社ギガプライズ(東京都中央区)、企画運営は、プレジデント・データ・バンク株式会社(東京都中央区)がそれぞれ対応。

ラドビジョンジャパン、次世代プラットフォーム SCOPIA とマネージメント・アプリケーション iVIEW スイートを国内向け7月より販売

ラドビジョンジャパン株式会社(東京都新宿区)は、ビジュアルコミュニケーション市場向けの統合ソリューションとして、次世代のプラットフォーム「SCOPIA (スコーピア)」とマネージメント・アプリケーション iVIEW スイート(アイビュースイート)を日本国内で7月1日より発売開始すると発表。

SCOPIA プラットフォームは、SIP と H.323 をサポートした ISDN、PSTN、3G、IP の相互接続を可能としながら、多地点接続機能とゲートウェイ機能を統合したシステム。コネクション毎に音声とビデオ映像の性能を個別に最適化。2Mbps の接続帯域、H.264 や 4CIF を標準サポート。

iVIEW は、SCOPIA とビデオ会議の映像を運営管理するためのソフトウェア・マネージメント・アプリケーション。ビデオ会議セッションやそのセッション会議の予約などの機能を提供。

【海外 News】米 Compunetix 社、 ISO9001:2000 に対応

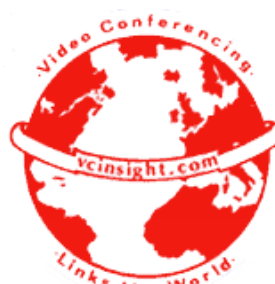
音声会議多地点接続装置などを開発する米 Compunetix

社は、同社の本社部門及び製造部門にて ISO9001:2000 に対応したと発表。

ISO9001 は、ISO (国際標準化機構) に 1987 年に制定された品質管理及び品質保証のための国際標準モデル。

Compunetix 社は、1990 年に設立の音声、ビデオ向けの多地点接続装置を開発。米国内では連邦政府、大手通信事業者、企業と幅広く導入されている。日本国内でもサービスプロバイダー及び大手企業などに導入実績がある。今年5月株式会社ジェイ・ティ・エス(神奈川県横浜市)と提携し日本事務所を開設。日本での事業拡大を目指す。(CNA レポート・ジャパン Vol.8 No.13 2006 年 5 月 10 日号)

【海外 News】Videoconferencing Insight 創刊 10 周年特集 : Videoconferencing Insight 編集長リチャードライン氏 : イギリスから見たテレビ会議システムの 10 年を振り返る (2) レポートした主な利用事例



(31 May to 5 June 2006 :The development of the videoconferencing industry over the last ten years as seen by the Editor of Videoconferencing Insight. Part 2. Some milestones in the development of the uses of videoconferencing の翻訳)

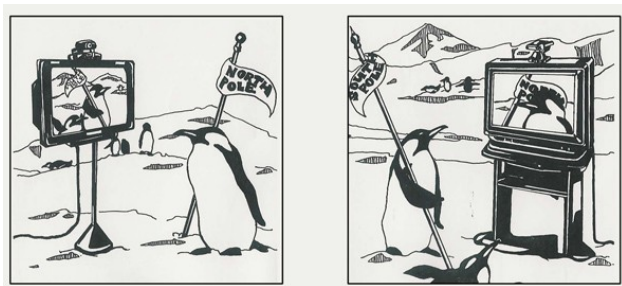
<http://www.vcinsight.com/>

1996 年5月31日初めて Videoconferencing Insight 誌が創刊された号では、ひとつの利用事例を掲載した。その事例とは、オランダの監査法人の事例で、テレビ会議などを通して IT やネットワークの技術がどのように活用されているのかレポートした。

そのころから、最近に至るまで ISDN によるテレビ会議が主流であったが、ISDN が国内だけでなく世界的に広がっていったということと、国際間の ISDN サービスも提供されてきているからというのが背景にあった。テレビ会議に IP というのはごく最近になってきたからだ。

このレポートでは、1996年から2005年までの過去10年間の発行の中からピックアップした45の事例の項目を年ごとにご紹介する。基本的には年毎に4つ紹介するが、年によってはそれ以上もある。

今回レポートするユーザーのカテゴリーは、企業が10、遠隔医療が10、遠隔教育が10、政府及び国軍が5、放送とエンターテインメントが4、コンサルティングが2、聾唖者向けが2、銀行サービスが2、裁判所及び刑務所が2、サービスプロバイダーが2、のそれぞれの事例の項目を年ごとにリストアップする。



They told me that IP stands for Inter Polar Visual Communications

前回の号でお見せした南北ペンギンがテレビ会議を行っている絵があったが、その意味は、「人間がもっとテレビ会議を使えば、オゾン層の破壊を食い止められるのではないか。」という意味が含まれていた。テレビ会議が環境フレンドリーであることは誰も疑う余地はないと思う。

さて始めよう。

1990年 ー米大手自動車メーカーは、1990年に35箇所の会議室にテレビ会議システムを設置。その後1996年には150会議室へ拡大。

1991年 ークエートのイラク侵攻とその後の湾岸戦争により、多国籍企業によるテレビ会議の利用に拍車がかかると予想された。

1992年 ーGeorgia Statewide Academic and Medical System(GSAMS)は、学校、病院、州政府部局を含む約400箇所でテレビ会議システムを導入。

1996年 ー独自動車メーカーは、トレーラー車にテレビ会議システムを搭載。アラバマ州の新しい工場建設場所とドイツの本社とのテレビ会議接続に活用。

ー英銀行、遠隔窓口受け付けサービスを提供。ピクチャーテル社のテレビ会議使用。

ーテレビ会議メーカーCompression Labs社(CLI)は、中国で500台以上のテレビ会議端末が稼働しているとレポート。

ー日本の通信大手会社、ピクチャーテル社のMCU25台を接続し、世界最大規模の多地点接続を実施。

ーダボスの世界経済フォーラムでテレビ会議システムをお披露目。

ー米の加州銀行は、ショッピングモールにテレビ会議キオスクを設置。

ー英医薬品メーカーは、同社のテレビ会議システムを更改。1社に絞った。

1997年 ー中国、世界16の医科系大学を結び遠隔医療のカンファレンスをテレビ会議で実施。

ー当時の米大統領ビルクリントン氏と英首相トニーブレア氏は、6月にコロラド州デンバーで開催されたG8サミットでVTEL社のテレビ会議システムを利用。

ーColumbia/HCAは、自宅の患者と医師を結んだ遠隔医療の実験を実施。

ー欧州化学メーカーは、同社世界120箇所3万のPCデスクトップにマイクロソフトのNetMeetingを使用。

ー欧州通信機器メーカーは、280台の、主にVTEL社のテレビ会議端末を社内で活用。

1998年 ーMotion Media社は、聾唖者向けの遠隔手話サービス提供のため20台のテレビ電話を提供。

ー欧州人材派遣会社、333台のテレビ会議シス

テムを導入。

1999 年—ビデオストリーミングへの関心が高まると David

Shimell 氏の記事掲載。

—ニューハンプシャー州の刑務所と法廷を、

TANDBERG 社のテレビ会議システムで接続。

—米国海上保安局は、遠隔トレーニングの目的
で 1500 箇所をテレビ会議で接続。

—Internet2 Megaconference は、11 台の多地点
接続装置を使い 60 箇所を結ぶ世界最大の IP
テレビ会議接続を行った。

—フロリダ州チャイルド保護チーム、遠隔医療ネ
ットワークを活用。

—当時ファーストレディだったヒラリークリントン
女史、英通信大手 BT 社のテレビ会議サービス
を使い、北アイルランドの 4 箇所 1000 人に対し
てテレビ会議で講演。

2000 年—ドイツテレコムの子会社 MGC-100 の利用増。

—アコード社の MGC-100 を使う。

—英首相トニーブレア氏、英国内学校テレビ会
議ネットワークを発表、Global Leap 2000 イベ
ントに参加。

—中国国内の銀行、RADVISION 社製 MCU と
VCON 社製テレビ会議端末 100 台導入。

—中国教育省は、国内 80 万の学校へ衛星を
介して MPEG-2 ビデオストリーミングを配信

—米エレベーターメーカー、Polycom Viewstation
端末を 100 台、60 の事業所へ設置。

2001 年—メキシコの石油会社は、海外 拠点との接続で

ピクチャーテル社の PictureTel 970 を採用。

—米外科医がテレビ会議システムを使い海 外
拠点にある遠隔のロボットを操作して胆嚢炎の
患者の外科手術を実施。

—アフガニスタンから衛星を使ったテレビ電話
によるテレビニュースレポートを実施。

2002 年—豪州クイーンズランドの遠隔医療ネットワーク

による遠隔医療サービスが広域地域をカバ
ー。

—米工作機械メーカー、258 の拠点にテレビ会
議システムの導入。

—イギリスの司法省(刑務所と裁判所)にて
1000 台を超すテレビ会議システムの導入(ソ
ニー製)。囚人の移動リスクを軽減。

—スウェーデンの遠隔医療ネットワーク、全国的
にブロードバンドインフラを導入。

2003 年—米ネットワーク機器メーカー、タンバークテレ

ビ会議導入、450 万 USD 削減。

—イギリス北方オークニー諸島の学生向けに遠
隔テレビ会議システムを使ったスペイン語
の授業を実施。

—米監査法人のマネージメントコンサルティング
サービス部門(ワールドソリューションセン
タ)でのテレビ会議の利用。

—米番組製作会社、2003 年 NFL draft でイン
タビュー用にテレビ会議システムを活用。

2004年—社員と聾啞者の社員間のコミュニケーション

に遠隔テレビ会議システムを使った手話
サービスを提供。

—英国際開発省、プロジェクトマネジメントに
ワールドワイドのテレビ会議システムのネットワ
ークを活用。

—英国内病院で院内トレーニング向けに、ソニ
ーの PD 150 カメラを組み合わせたテレビ会議
システムを活用。

—London Grid for Learning で 2,600 の学校全
てに Click To Meet デスクトップテレビ会議シ
ステムを導入。

—米多地点接続事業 ACT Teleconferencing 社
は、10,242 名を接続した電話会議を実施。ギ
ネス登録へ。

2005年—欧州事務機器メーカー、米 IP テレビ会議接

続事業の Glowpoint 社の定額制サービスを導入。

ーワシントン DC の政治家向けに糖尿病デルタパイロットプログラム発表。テレビ会議を使った遠隔で実施。

ー7月2日ロンドンハイドパークでの The Live 8 音楽イベントの開催者が VoIP を使用し遠隔演奏を実施。

ーフランス国内 10 の病院と国内の脳梗塞治療センターとをテレビ会議システムで接続。

ショートニュース項目

◆トーマンサイバービジネス株式会社(東京都港区)は、同社の多地点ビデオ会議システム「Visual Nexus(ビジュアルネクサス)」と、IP 電話システムや Microsoft Office Live Communication Server の連携を実現する。「Visual Nexus SIP Option」を発表。7月下旬より発売予定。(関連 SIP 対応 CNAレポート・ジャパン Vol.8 No.14 2006年5月20日)

◆株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、同社のウェブテレビ会議システム新バージョンのテスト版「nice to meet you for ミーティング バージョン 4 β版」公開テストを2006年6月1日(木)より実施。契約のユーザーのみ無料試用可能。試用したユーザーの意見をもとに、正式版をリリースする予定。新しいユーザーインターフェイス、予約状況がカレンダー表示などを強化する。

◆【海外 News】イスラエルのラドビジョン社の発表によると、ラドビジョン社製の SCOPIA MCU が、バージョン5によって、720p、1080p のHD(ハイビジョン)に対応したと発表。6月に北米で開催された InfoComm 06 展示会の会場にてHDビデオ会議のデモを、米 LifeSize Communications 社と実施。RADVISION 社の SCOPIA MCU と LifeSize 社の LifeSize Room ビデオ会議システム端末との間での接続。それぞれの社のブースにて行われた。

◆【海外 News】Emblaze-VCON 社の発表によると、HDに対応したテレビ会議ソフトウエア「vPoint HD V.7」がリリースされた。vPoint のバージョン 7。H.264 に対応し HD(720p

解像度)をサポート。AAC-LD 20KHz の音声コーデック。データ共有機能。その他では、H.263、WindowsXP 用 USB マイクなどでの改善や性能向上を行っている。

◆【海外 News】電話会議、ウェブ会議、テレビ会議多地点サービス米大手 ACT Teleconferencing 社は、米多地点接続装置メーカー Compunetix 社のキャリア向けの大型多地点接続装置「Summit Audio Conferencing Platform(サミット・音声会議プラットフォーム)」の導入を決定した。ACT Teleconferencing 社の ReadyConnect サービス用に使用する。VoIP や一般電話混在の多地点接続などが可能。

展示会レポート



ビジュアルコミュニケーション 2006
IP テレフォニー&ケータイソリューション 2006
2006年5月18日(木)~19日(金)
サンシャインシティ 文化会館(東京・池袋)
主催:日経 BP 社

<http://expo.nikkeibp.co.jp/iptel/vc/index.shtml>

日経 BP 社主催のビジュアルコミュニケーション 2006 と IP テレフォニー&ケータイソリューション 2006 が開催され、両日で、両展示会をあわせ 13,290 名の来場があった。

テレビ会議、ウェブ会議、音声会議系が中心のビジュアルコミュニケーション 2006 は、過去最大の 31 社が出展した。IP テレフォニー&ケータイソリューション 2006 は、39 社で合計 70 社(一部重複あり)が出展。

ビジュアルコミュニケーションを中心に取材したが、主

要なテレビ会議メーカーが出展しつつ、その中でもとりわけウェブ会議系のブースが多かった。その他では、音声会議端末、エコーキャンセラー、コンテンツ配信、テレビ会議向けの関連装置など。

今回 30 社以上周ったブースの中でいくつかピックアップして簡単ではあるがレポートする。すべてのブースを周り詳細にお話することができればよかったが、これは今後の定期レポートで順次取材、レポートできればと思っている。

(以下基本的に取材順)

ユニアデックス

中国の AVCON 社のウェブ会議システム。上海とリアルタイムに接続し映像と音声の品質をデモ。狭帯域の回線でも使え、数客拠点のセッションに対応するという。同社説明員によると中国ではウェブ会議市場ではリーダーだという。



AVCON による上海との接続

パナソニックソリューションテクノロジー

ウェブ会議システム「リアルタイムコラボレーション」や電話会議端末「KX-TS730JPS」などが展示。ホワイトボードやプラズマディスプレイと組み合わせたウェブ会議など。

蝶情報システム

Web コラボレーションシステム開発コンポーネント「IC³ (アイ

シーキューブ)、オプション製品「IC³ extension for Helpdesk」などの紹介とデモ。

インターワイズ

ウェブ会議システムの「ECP Connect」の最新バージョン「ECP Connect V7」を紹介。日本語版は 8 月に出荷予定。新しいバージョンでは、自分専用の会議室や音声品質の強化を行っている。

TANDBERG

同社のビデオ会議端末、コンテンツサーバー、MCU など主要製品の展示。その中で今年 2 月に発売になった「TANDBERG Compass」も展示されていた。TANDBERG Compass は、コーデックに TANDBERG1000 を使っている。公衆向けでキオスクなどでの活用を見込む。壁掛けタイプ。



クレオ/NEC 通信システム

ウェブ会議システム最新バージョン「FACE Conference ORIGINAL」の紹介。インターフェイスの一新など機能強化を行った。210 社以上の導入実績があるという。

NEC

ウェブ会議システム「コミュニケーションドア」の展示及びデモ。NEC 独自の VoIP 技術を活用し、音の途切れや遅

延を抑制する仕組みがある。小中規模向けのパッケージタイプや大規模向けのソリューションも提供している。



ソニーマーケティング

ソニーの PCS シリーズビデオ会議システムを展示。また、参考出品として、HD 対応 (ハイデフィニション) のビデオ会議システムを紹介。4Mbps での映像とステレオ音声をデモ。価格、発売時期は未定とのこと。



ソニーHD 対応ビデオ会議システム (参考出品)

NTT アイティ

2001 年から販売してきた同社のウェブ会議ソリューション「MeetingPlaza」のバージョン 3.5 の展示。中堅から大企業のグループ利用まで、国内 800 社を越える企業に利用されているという。今回のバージョンは、7名同時発言やプレゼン

テーション機能での最大参加人数を 16 人から 32 人までサポートした。

松田通商

米 ClearOne 社の高性能パーソナルスピーカフォン「Chat50」や音声会議システムを展示。Chat50 は、ポータブルタイプのスピーカフォン。VoIP の IP 電話、携帯電話、MP3 プレーヤーなどでハンズフリーとして使える。



ClearOne の音声会議システム 右側が Chat50

ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン

米のウェブ会議サービスの大手の日本法人。世界シェアは、フロスト&サリバンの2005年調べによると64%あるという。世界 70 国 22,650 社以上の企業が同社のサービスを利用。2005 年度は、25 億ミーティング分サービスを提供した。



同社は、専用のグローバルネットワーク Mediatone Network を持つ。

トーマンサイバービジネス / 沖電気ネットワークインテグレーション

沖電気 IP テレフォニーサーバ「IP CONVERGENCE Server SS9100」と、トーマンサイバービジネスビデオ会議システム「Visual Nexus」を融合させたソリューションのデモなど。IP 電話と、ビデオ会議、ウェブ会議を同一の IP ネットワーク環境下で相互接続が可能。



ポリコムジャパン

ポリコムのビデオ会議端末、多地点接続装置などの展示。



Polycom Mobile Responder (左) と ReadiConvene シリーズ

また、Skype 用のスピーカフォン「Polycom Communicator」も紹介していた。日本では未発売だが、手のひらに乗るサイズで 22Khz の音声までサポート。Skype Certified の製品。

ENWA

SIP 対応の端末型新商品「ViewTerminal」を展示。高画質タイプで、テレビ電話と PC ファイルの資料共有が行える。それ以外には多機能でライブ配信や VOD 受信などが行える。

東通産業



ソニービデオ会議端末向けの、ワンタッチで相手先に接続する「ワンタッチチャブル(写真左)」やビデオ会議などで議事録として使えるレコーダーなどを展示。ワンタッチチャブルは、ソニーの PCS シリーズ機に対応しており、相手先最大 5 箇

所まで登録、RS232C、AC アダプタ付き。片手にのるサイズ。

バイキューブ

ウェブ会議「nice to meet you」の新しいバージョンがリリース予定。同社ブースでは、その新しいバージョンのデモは行われていなかったが、現在利用者向けにベータ版を公開しているという。

KDDI ネットワーク & ソリューションズ

企業向け映像コミュニケーションサービス「Eye-See-Tel」の紹介。PC ソフトウェアタイプで、テレビ会議、チャット、アプリケーション共有、ホワイトボード、ファイル転送、録画な

どの機能あり。在宅勤務や企業の営業所や支店などでの活用事例を紹介。

日立ハイブリットネットワーク

IPビジュアルコミュニケーションシステム「NetCS series」。高品質の音声と映像、そして最大9地点の映像を同時に表示。データ共有、テキストチャット、予約や参加はウェブブラウザで簡単にできる。FOMA接続オプション、フレッツフォン対応機器オプション、日立製作所が開発したグループウェア「Groupmax Version 7」とNetCSとの連携。また、参考出展で、NetCS series用のセキュリティPC対応「NetCSビジュアルクライアント」も展示。



その他の出展社

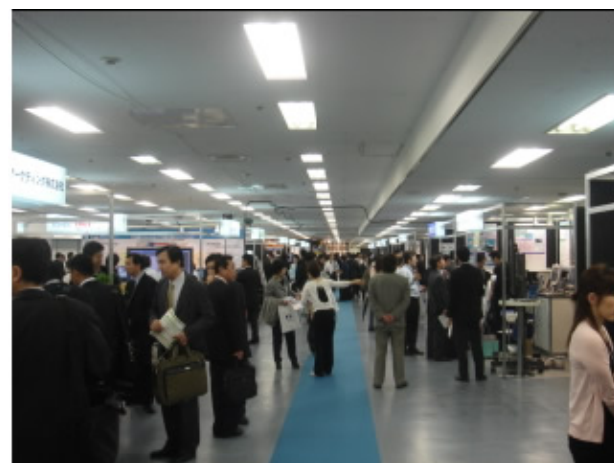
その他では、音声会議端末「プロジェクトフォン」のヤマハエレクトロニクスマーケティング、「FreshVoice テレ会議」のエイネット、現在2000社以上が利用するテレビ会議サービスを提供するNTT ビズリンク、紙資料などが共有できるプロジェクター型TV会議システム「CollaboMate iP」の日本アビオニクス、最大1000拠点まで対応するウェブ会議「LiveOn」のジャパンメディアシステム、FOMAのテレビ電話サービス「ビジュアルネット」のNTTドコモ、Projectware「EZbase」ウェブ会議システムを提供するコンピューターサイエンス、ウェブ会

議や電話会議などのソリューションを提供する丸紅テレコム、CodianのMCUなどのメディアプラス、テレビ会議端末のない拠点へ映像配信するソリューションのメディアサイト、新製品のエコーキャンセラー「Real Talk」の展示を行ったNTTアドバンステクノロジーなどが出展。

IPテレフォニー展示で出展のネットワンシステムズは、ラドビジョンのMCUやClick To Meetなどの展示、住友商事マシネックスでは、NECエンジニアリングが5月に発売したエコーキャンセラー「VoicePoint EX」など、マイクロソフトは、LCSなどのユニファイドコミュニケーション、NTT東日本では、フレッツフォンVP1500など、シスコシステムズは、シスコユニファイドコミュニケーション。



ビジュアルコミュニケーション 2006 セミナー会場



ビジュアルコミュニケーション 2006 展示会場

【編集長橋本のコメント】

コミュニケーションの統合が今後の会議システム業界でのひとつの大きな流れになっていくと思われるが、ますます会議システム自体が、コミュニケーション全体のうちのひとつのコンポーネント化していく状況を見せている。そういった展示が今回の展示会でも見られた。

この流れは、2000年に北米で開催された会議システムの専門展示会 TeleCon での業界のキーマンによるパネルディスでいみじくも予想されていた。編集長橋本もそのパネルディスを聴講したが、テレビ会議システムは単体のアプリケーションから近い将来、コミュニケーション統合の中のひとつのコンポーネントとなっていくだろうと。

それがブロードバンド、技術の日進月歩によりようやく現実の動きとなってきた。

今後コミュニケーションの統合をうたったソリューションが各社から出てくるのではないと思う。つまり、異通信プロトコル間の相互接続やプレゼンスの連携、業務系アプリケーションとの連携など。そしてそこでキーになってくるのが SIP。

また、現在、多数出て来ているウェブ会議は、今のところ単独のウェブ会議アプリケーションという感じが多く見受けられるが、今後はコミュニケーションの統合という文脈の中でコンポーネントとしてのウェブ会議という方向へ動いていくのではないかと予想する。すでに専用のテレビ会議端末ではそのような方向で動いている。

会議システム業界では、コミュニケーションの統合に新たな市場機会を見いだそうとしている。

Video-IT セミナー2006

『最新！映像活用システム事例紹介 10選!!』

日時:2006年7月7日(金)

第1回 13:00~15:00/第2回 16:00~18:00

会場:株式会社アイ・ビー・イー デモルーム

東京都千代田区二番町3番地 麹町スクエア 5F

主催:株式会社アイ・ビー・イー

詳細:

http://www.mpeg.co.jp/event_seminar_campaign/event_seminar/index.html#videoit

Wainhouse Research Summit 2006 Unified Collaboration and IP Communications

会期:2006年7月19日、20日、21日

会場:アメリカ マサチューセッツ州ボストン The Colonnade Hotel

主催:Wainhouse Research, LLC

詳細:<http://www.wainhouse.com/wrsummit/>

お詫びと訂正

Vol.8 No.16号(2006年6月10日)での株式会社クレオの記事内で、4ページ右の特徴(5)の価格が85,00円となっていました。正しくは、85,000円でした。関係者の方々にはお詫びいたしますとともに、訂正させていただきます。また、記事内での訂正は、6月10日午後には既におこなわれております。

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございました。CNAレポート・ジャパンの定期レポートは、8月10日号、20日号は夏休みとさせていただきます。業績発表は次号に変更致します。

セミナー情報

編集長 橋本啓介

Breeze 実感ハンズオンセミナー

~ 簡単 Web 会議編 ~

会期:2006年7月13日(木) 13:30~16:30

場所:アドビシステムズ株式会社セミナールーム

主催:NEC システムテクノロジー株式会社

共催: NJC ネットコミュニケーションズ株式会社

詳細:

<http://www.go-event.info/breeze/necst07/index.html>